

三猿齋の心感じて

顕彰の茶人グループ

幕末期の岡山藩家老で大茶人でもあった伊木三猿齋の顕彰を進める茶人グループ「和楽会」（河田隆介会長、6人）が、三猿齋の菩提寺・少林寺（岡山市中区国富）にある茶室「三猿堂」を同寺と協力して6年がかりで修復した。お披露目の茶会を3、4日に開く。

（大石哲也）



少林寺（菩提寺山）の茶室修復 3、4日にお披露目茶会

三猿堂は1935年、同寺と地元の茶人たちが三猿齋の座像を傷むに任せる状態だった。2005年に発足した同会メンバーが惨状を知り、修復への協力を同寺に申し出。収益を改修費に充てる追善の和楽茶会を同年から毎年開催し、同寺と協力してシロアリ駆除や土壁の修理、畳の入れ替えなどを少しずつ進めた。昨年7月には最も傷みの激しかった屋根の改修も終わり、往時の姿を取り戻した。

披露の茶会は、三猿齋ゆかりの道具類を用いて行われる。河田会長は「虫明焼を保護するなど岡山の茶の湯文化発展に貢献した三猿齋の精神を感じてほしい」と話している。

茶会は両日とも午前9時〜午後2時半で、定員各150人。参加費5千円。希望者は2日までに同会事務局（086-2333-2227）へ申し込む。

まつる堂を兼ねて創建。しかし、戦後は利用されることもなく、

修復が終わり、往時の姿を取り戻した「三猿堂」